

インターバンクの声（2015 年 5 月 21 日）

注目された 4 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録の公開前にも関わらず、ニューヨーク市場スタート時の 120 円 70 銭台からドル買いになっていたドル円は、一度東京時間の午前零時を回って 121 円 40 銭近くまで上昇してしまっただ。前日の住宅着工件数の結果があれほど良くなければ、議事録の内容への期待値も下がったままであったと思われるが、早い時期の利上げの可能性が残っていそうだとの思惑があつてのドル買いだったのだろう。その数時間後に確認できた議事録は、6 月の利上げの可能性は低いとの見方が示され、ドル円は再度 121 円を割る動きとなった。ただ、先物市場のトレーダーなどを中心に、依然として年内の利上げがあるとの予想が残っていることも解り、121 円台を回復させてアジア市場に戻って来ている。株式市場や債券市場の反応も気になるが、今週残り 2 日間の米経済指標の結果も気になるところだ。

提供:SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。